

# **有明海沿岸道路に関する要望**

**熊 本 県  
熊本県議会**

**有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議熊本県議員連盟  
有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会**

# 有明海沿岸道路の建設推進を求める要望

熊本県の道路整備につきましては、日頃から格別の御配慮を賜り厚くお礼申し上げます。また、「平成28年熊本地震」や「令和2年7月豪雨」からの創造的復興の取組みにおいても、多大なる御支援・御尽力をいただき改めて感謝申し上げます。

「有明海沿岸道路」は、佐賀・福岡・熊本の3県にまたがる広域的な経済交流圏を創出するとともに、九州の循環型高速交通ネットワークの形成に不可欠な道路です。

令和3年6月に策定した「熊本県新広域道路交通計画」には、「有明海沿岸道路」を高規格道路に位置付けるとともに、新たに「有明海沿岸連絡道路」を構想路線に位置づけております。

「有明海沿岸道路」につきましては、令和4年1月に三池港IC連絡路の工事に着手され、現在、大島高架橋の橋脚が次々と姿を現し、熊本県側において工事が本格化しています。また、今年度は、熊本県初の整備区間となる荒尾道路が新規事業化されるとともに、長洲町～玉名市間において、計画段階評価のための調査に着手されるなど、有明海沿岸道路全線の整備に向けて、大きく推進していただいております、重ねてお礼申し上げます。

平成28年熊本地震では、九州縦貫自動車道をはじめとする幹線道路の被災・寸断により深刻な交通渋滞が発生するなど、災害時における道路ネットワークの必要性を改めて認識したところです。近年、激甚化・頻発化する大規模災害に対応するため、救助活動や支援物資の輸送路となり、「命の道」としての役割も果たす本道路の整備は非常に重要です。

また、熊本～福岡～佐賀県の重要拠点である熊本港・長洲港・三池港・九州佐賀国際空港などを連絡しており、物流の利便性の大幅な向上による企業進出や沿線経済の発展が期待されます。更に、沿線には、万田坑や宮原坑、三重津海軍所跡などの世界遺産とともに、ラムサール条約湿地登録の荒尾干潟や柳川川下りなど多くの観光資源を有しており、広域観光ルートが形成されることで、九州全体の益々の発展にも繋がります。

民間での動きも活発化しており、有明海沿岸道路整備の進展を見据え、沿線に連なる観光資源等を活用して観光客を呼び込むため、昨年6月に、熊本、福岡、佐賀、長崎の4県をまたぐ11の観光協会による「環有明海観光連合」が設立され、今年5月には、有明海沿岸道路の早期整備を求める「鹿島宣言」が採択されるなど、広域的な取組みが推進されております。

熊本県のみならず九州全体の産業や地域の活性化、観光振興に資するとともに、地域間の物流を平常時、災害時を問わず安定的な輸送を確保するためには、「有明海沿岸道路」の早期整備が必要です。

「有明海沿岸道路」の整備推進のために、周辺市町と一体となり、全面的に協力して参る所存ですので、次の事項について特段の御配慮を賜りますよう強くお願いいたします。

- 一 有明海沿岸道路「三池港IC連絡路」及び「荒尾道路」の早期整備
- 一 有明海沿岸道路「荒尾市～長洲町」間の早期事業化
- 一 有明海沿岸道路「長洲町～玉名市」間の計画段階評価の早期着手及び完了
- 一 有明海沿岸道路「玉名市～熊本市」間の早期整備に向けた取組みの推進
- 一 「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策」に必要な予算・財源について、これまでのペースを緩めることなく、令和5年度補正予算を例年以上の規模で確保し、計画的に事業を推進すること  
また、対策期間完了後においても、切れ目無く、継続的・安定的に国土強靱化の取り組みを進めるため、国土強靱化実施中期計画を早期に策定し、必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保すること
- 一 災害時でも安定的な人流・物流の確保に向けた高規格道路のミッシングリンクの解消やダブルネットワーク化等、幹線道路ネットワークの構築
- 一 道路整備に加え激甚化・頻発化する大規模自然災害の脅威・危機に即応するための地方整備局等の人員体制の充実・強化や災害対応に必要な資機材の更なる確保

令和5年11月14日

熊本県 知事 蒲島 郁夫

熊本県議会 議長 洲上 陽一

有明海沿岸インフラ整備  
3県議会連絡会議熊本県議員連盟 会長 内野 幸喜

有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会 会長 大西 一史